

漢方の待合室

No.7
2003 JANUARY

更年期障害

更年期障害とは？

通常、閉経前後の女性に発症する女性ホルモン（エストロゲン）の減少を原因とした様々な症状を呈する症候群をいいます。一般的に更年期は閉経の前後各5年から10年とされており、日本人の平均閉経年齢は50歳です。最近では男性の中年以降の不定愁訴を含めることもあります。本来は女性特有の症状であり、症状が多岐にわたる、一定しないことが多い、環境や状況に左右されやすい、個人差が大きいなどの理由により、周囲の人の理解が得られにくい疾患の一つです。

どんな症状がありますか？

代表的な症状は急激に生じる

熱感やのぼせ、異常発汗であり、動悸、息切れ、末梢部では逆に冷えを伴うこともあります。症状や将来への不安などから精神的にも不安定になりやすく、不眠やうつ症状も多く見られます。また、痛み、しびれ、こり、重圧感なども症状の一つと考えられています。このほか骨盤部の筋力低下によって頻尿や尿失禁が出現したり、生殖器においては、閉経後（萎縮性、老人性）膣炎によって粘膜萎縮や分泌物減少が起こり、灼熱感、痒痒感、乾燥感および性交痛の原因となります。また、性欲の減退も一般的な症状です。

女性ホルモンの主なはたらきとして、女性としての組織や細胞の機能維持、カルシウムを貯蔵し

て骨を強化、血中コレステロールの調節、脳の代謝維持が挙げられます。このため、女性ホルモンの減少に伴い、骨粗鬆症、高脂血症、動脈硬化、痴呆症などの疾患は発症の危険性が高まるといわれています。また肥満のタイプには男女差があるといわれていますが、男性タイプ（内臓脂肪型）の肥満も増えてきますので注意が必要です。

治療法は？

治療にはホルモン補充療法、漢方薬、対症治療薬などの薬物治療を中心に、カウンセリングや自律訓練法などを用いた心理療法が行われており、マッサージや運動、趣味による気分転換なども有効とされています。

今日の漢方処方.....加味逍遙散《和剤局方》

逍遙散に、山梔子と牡丹皮が加味された処方です。古来より、精神症状を伴う婦人科系疾患に主に用いられてきました。しかし女性に限らず、不定愁訴を訴える者や、柴胡剤と駆瘀血剤の証を併せ持つ虚証の者にも広く応用できる処方です。

加味逍遙散の構成生薬

| | |
|----|-----|
| 柴胡 | 当帰 |
| 芍薬 | 白朮 |
| 茯苓 | 生姜 |
| 薄荷 | 山梔子 |
| 甘草 | 牡丹皮 |

薄 荷

シソ科の多年生草本である薄荷は、生薬としてよりは、“ミント”の名でハーブとしてよく知られています。その主成分であるメントールは、ガムなどの食品の他、塗り薬やハップ剤に配合されているスーッとする精油成分として、なじみの深いものです。

民間薬としては、矯味料や芳香性健胃薬として用いられてきました。漢方薬の構成生薬としても、清涼・解熱・発汗・健胃の目的で、各種処方に配合されています。

大変交雑しやすい植物であり、世界中に多種類の薄荷が存在します。日本に自生するニホンハッカはアジア原産で、精油含量は多いのですが、苦みと樟脳臭があるた



め食品に向かず、主に薬用に用いられました。南～中央ヨーロッパ原産の西洋薄荷（ペパーミント）や緑薄荷（スペアミント）は香気に優れ、薬用の他、ハーブティーや香料として用いられます。

ギリシャ神話では、プルート神がメンタという美しい女性に心惹かれ、嫉妬深い妻のプロセルピナがメンタをやら踏みつけたので、プルート神はメンタを救うべく香の良い薬草に彼女を変えてしまった、という逸話があります。実際、薄荷は大変生命力が強く、踏まれたくらいでは枯れず、雑草の如くいくらでも増えます。意外とメンタも、プロセルピナといい勝負だったかも知れません。